

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	タブレット端末を効果的に活用し、児童一人ひとりの個別最適な学びを推進する。 教師と児童で授業を創り、問題解決型の学習を進めていく。 個別最適な学びが「孤立した学び」とならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、児童相互の協働的な学びを推進する。
環境作り		①児童が安心して学校に通えるように、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。 ②互いに認め合い励まし合える学級づくりを進めるとともに、ICT機器等を効果的に活用し、学習効果を高める。 ③保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・なぞり書きや、ドリルの直しに繰り返し取り組むことで、ひらがなや漢字の読み書きが安定してできるようになった。教材文や問題に線を引いて課題に取り組むことで、自分の考えなどを書けるようになってきた。文や文章を正しく書くことに課題があるので、指導を工夫していく必要がある。 ・数の合成、分解を考えるにあたって、問題文に線を引いたり、図を描いたりして考える力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① プリントやドリルで、なぞり書きに繰り返し取り組む。 ② 例文や文型を提示するとともに、「誰が」「何を」「どうした」という構成を意識させる。 ③ 書いた文章を自分で読み直して、確認する。 ④ 問題文の要点に線を引く。 ⑤ 図をノートに書く。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを詳しく、分かりやすく文章に表す活動を繰り返すことで、順番を意識した文章を書けるようになってきた。 ・ペアでの話し合い活動を積極的に行うことで、相手に伝わるように話す力がついてきた。大切なことを聞き逃さないことにはまだ課題があるので指導が必要である。 ・文章の読み取りはできるようになったが、自分と比べて読んだり考えたりすることにまだ課題があるので引き続き指導が必要である。 ・基本的な計算はできるが、文章問題になると、問題をきちんと読まず、正しく解答できないため、問題を読む際のポイントを押さえる必要がある。 ・考え方を説明することへの苦手意識をなくすため、言葉だけでなく図などでも表現する方法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 文を書く際、主語と述語の関係を確認する。話型や文型の指導をする。 ② 年間を通してスピーチを行う。 ③ ペアでの話し合い活動を取り入れる。話を聞く時のポイントを押さえる。 ④ 比べて読むときのポイントを提示したり、自分の経験を振り返る時間をとったりする。また、話し合いをすることで、考えを共有する。 ⑤ 文章問題で分かっていること、問われていることの確認をする。 ⑥ 問題解決型の学習を取り入れ、自力解決の時間を確保し、自分

		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算力を定着させるため、反復練習をする必要がある。 	<p>の考えを説明する機会を多く作る。個人→ペア→全体の学習の流れを作る。</p> <p>⑦ 計算問題の反復練習をする。</p>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しく読んだり、書いたりすることや、言葉の特徴や使い方をとらえることはよく身に付いている。 ・物語を読み取ることにに関して、登場人物の行動や気持ちなど想像を膨らませることに課題がある。 ・繰り上がりのあるたし算が全体的に苦手な傾向にある。繰り返し練習問題に取り組む等の指導が必要である。 ・かけ算九九を定着させるため、引き続き練習が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からすすんで漢字を使おうとする態度を育てる必要がある。 ・経験したことから話題を決め、自分の気持ちや考えを文章で書き表す力の育成が必要である。 ・登場人物の行動や気持ちなど、叙述を基に想像を膨らませて物語を読み取る力を育成する。 ・計算の基礎・基本を正しく理解し、正確に計算できる力を付けさせる。 ・ものさしの目盛りや水のかさの単位など、数量感覚を育てる。 	<p>① 漢字ドリルやドリルノート、デジタルコンテンツの活用をする。</p> <p>② 日記や学習感想など、日常的に書く機会を増やす。</p> <p>③ 国語辞典を活用する。</p> <p>④ デジタルコンテンツを活用する。</p> <p>⑤ 九九や繰り上がりのあるたし算の復習を繰り返し行う。</p> <p>⑥ LやdLマス、ものさしなどの道具を扱う機会を増やす。</p>
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・「話し手が伝えたいこと」の中心を捉えて、話を聞く力の向上が必要である。 ・言葉のまとまりを意識して読んだり文型が決まった文章を書いたりすることはできているので、「指定された分量で要約する」力や「考えたことや思ったことが伝わるように書く」力の向上が必要である。 ・小数のかけ算・わり算の筆算の仕方、四則混合計算のきまりのある計算を繰り返し練習する必要がある。 ・身に付けた知識・技能を活用して、難しい文章問題を論理的に解答できる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の中心や要点を整理しながら、正確に聞き取る力を育成する。 ・自分の考えをもち、書く力を育成する。 ・計算単元では、既習事項の確認を丁寧に行う。 ・算数少人数では、習熟度別のクラス分けを行い、クラスの実態に応じて、復習を交えて基礎・基本の定着を図ったり、文章問題や考え方の説明などの発展的な学習にも取り組んだりする。 	<p>① 読書等の環境整備をする。</p> <p>② 自分の考えや意見を文章化する機会を増やす。</p> <p>③ 基礎的な計算練習の日々の取り組みを行う。</p> <p>④ デジタルドリルを活用する。</p> <p>⑤ 見直しが習慣付くように、声掛けを徹底する。</p>
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力調査の結果、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率が高く、概ね定着しており、文章の要旨をまとめることも少しずつできるようになってきている。より簡潔に要点を絞って書ける継続的な指導が必要である。 ・事実と意見、具体と抽象、などを区別して読むことや、場に応じて文を書き分けることなど、意識できていないことが多く、指導が必要である。 ・分数、小数の計算において、計算の 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の学習では、指定の文字数で簡潔に要旨をまとめることができるよう、筆者の主張個所を意識して読んだり、キーワードを押さえたりしながら、要点を押さえて書く指導をしていく。 ・例文を用いて、事実と意見、具体と抽象の理解を深めながら、それを生かして書く活動を取り入れる。また、文章を書く際は、読む相手を意識して書かせることで、場に応じた文章が書けるようにする。 ・計算の順序を意識して書くようにするため、 	<p>① 漢字ドリルとデジタルドリルを併用する。</p> <p>② 日記や振り返りを書かせて、文章を書くことに慣れる。</p> <p>③ 国語のノートをマスノートにし、文字数を意識させる。</p> <p>④ 算数習熟度に応じた問題に取り組ませる。</p> <p>⑤ 紙の計算ドリルで基礎・基本の力を定着させる。</p> <p>⑥ デジタルドリルで繰り返し計算</p>

	<p>仕方は概ね理解しているが、小数点の位置や繰り上がり、約分などのケアレスミスが多い。</p> <p>・文章題の理解においては立式を間違えることが多く、何を計算で求めるかが理解できていない児童が多い。</p>	<p>計算ドリルを活用し、基礎・基本の力を大切に育てていく。また、デジタルドリルを活用し、計算問題に繰り返し取り組ませ、速く正確に計算する力を身に付ける。また、習熟度によっては、難解な文章題にも取り組ませていく。</p> <p>・問題を読み、情報を整理し、論理的に考える力を身に付ける。</p>	<p>問題の練習をする。</p> <p>⑦ 単元の特性に応じて、文章を書く活動を取り入れていく。</p> <p>⑧ 文章題では、分かっていることに実線、求めることに波線を引かせる。</p>
6 学 年	<p>・習った漢字を使って文を書くことに課題があるため、漢字を活用する力の向上のため繰り返しの練習が必要である。</p> <p>・物語の内容を読み取ったり、自分の考えを文章に表現したりすることに苦手意識がある児童が多い。</p> <p>・算数を苦手としていない児童でも、計算間違いや小数点の位置を間違えるなど、単純なミスが多いため見直しをする習慣を身に付ける必要がある。</p> <p>・式の意味を理解せず立式している児童が多い。</p>	<p>・授業全体を通して、文章を書く活動では習った漢字を使うように指導する必要がある。また、デジタルドリルや漢字練習ドリルを活用し、知識・技能の定着を図っていく。定期的にミニテストを行って繰り返し復習するよう指導する。</p> <p>・自分の考えをもつために、視点を明らかにしてから活動を進めていく。また、考えに対する根拠を明確にして自分の考えを表現させる。</p> <p>・見直しや検算の重要性を指導し、粘り強く学習に取り組む習慣を児童に身に付けさせる。また、デジタルドリルを活用し、繰り返し計算練習に取り組ませる。</p> <p>・式を立てる前に、問題文のキーワードを確認するなど内容を理解させてから問題に取り組ませるようにする。</p>	<p>① 漢字練習ドリルを繰り返し活用する。</p> <p>② ミニテストで知識の確認をする。</p> <p>③ 学習活動ごとに観点を提示し、自分の意見をもてるようにする。</p> <p>④ 少人数での共有活動を設定する。</p> <p>⑤ デジタルドリルを活用する。</p> <p>⑥ 問題文のキーワードを捉えられるようにする。</p> <p>⑦ 解き終わった後に、見直しをする。</p>
特 別 支 援			

